

(科目コード : 2000220004CC)

【改訂】第31版(2013-03-11)

【科目】哲学

【科目分類】一般科目 【選択・必修の別】必修 【学期・単位数】後期・1単位

【対象学科・専攻】環境都市 4年

【担当教員】須藤 和夫

【授業目標】

- ・哲学とはどういうことを研究する学問なのか、また、科学や宗教とはどう違うのかを理解することができる。
- ・哲学の基本的諸概念を理解し、できれば西洋哲学史についてもおおまかに理解することができる。
- ・授業を通して自分なりに思案するための糸口をつかむことができる。

【教育方針・授業概要】

- ・本科目の総授業時間数は22.5時間である。
- ・まず、タレス・ソクラテス・デカルトという3人の哲学者の業績を通じて、おおまかな哲学のイメージをつかむ。次いで、哲学的諸概念や哲学思想についての説明を聞きながら、少しずつ自分なりに哲学的に考えることを学ぶ。授業の最後には、文章によって自分の考えを表現してみる。
- ・自分に合わない考え方が出てくるかもしれないが、むげに否定したり拒否したりしないで、そういう考え方もあるのかと興味をもち、その議論の組み立てを理解することが大切である。

【教科書・教材・参考書等】

参考書：『哲学の謎』：野矢茂樹：講談社現代新書

参考書：『哲学への招待』：沢田允茂・黒田亘(編)：有斐閣双書

参考書：『哲学入門』：B・ラッセル：ちくま学芸文庫

【達成目標】

	達成目標	割合	評価方法
1	物事の根底をどこまでも反省的に追求するという、哲学的思考方法に習熟する。	50 %	中間試験 20%、定期試験 20%、レポート 10%の割合で評価する。
2	代表的な哲学的諸問題の在り処を抑え、それについて自分なりの考えの方向性をもてるようになる。	50 %	中間試験 20%、定期試験 20%、レポート 10%の割合で評価する。

【本校の学習・教育目標】

(A-1) 人文社会系の科目の学習を通じて、人間文化と社会生活について理解する。

【授業計画】(哲学)

回数	授業の主題	内容	レポート	宿題
第1回	哲学の意味	タレスとソクラテスを通じて、哲学とは何かを理解する。		
第2回	方法的懐疑	デカルトを通じて哲学とは何かを理解する。		
第3回	意識と実在	観念論と実在論の区別		
第4回	記憶と過去	時間論 特に過去について		
第5回	時の流れ	時間論 特に瞬間について		
第6回	私的体験	知覚世界の自閉性、意味の自閉性		
第7回	経験と知	帰納と演繹、論理というもの		
第8回	規範の生成	正常と異常、人間の社会的存在		
第9回	中間試験			
第10回	意味のありか	一般観念、普遍の存在の問題		
第11回	行為と意志	行動と行為の区別、意志の有無		
第12回	自由の有無	自然法則と意志の自由、決定論		
第13回	科学の起源	コペルニクスからニュートンまで(キリスト教と哲学と科学の関係)		
第14回	科学の方法	仮説演繹法、通常科学と科学革命、パラダイムの概念		
第15回	形而上学・神と宗教	神の存在証明、宗教の役割、宗教と哲学と科学の差異 形而上学の語義、カントの二律背反、体系知		